

評価対象	評価項目	具体的数値項目	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
			①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。	A	A	A	学習活動・部活動・特別活動(学校行事等)のバランスを図りながら、学校における生徒の活動の充実を図った。	文武両道の教育姿勢を生徒・保護者が強く感じ、肯定的に受入れている様子が見える。	部活動の在り方や学校行事の見直しを検討しながら、更なる充実を図る。
		② 「総合的な学習の時間」における活動を通じて自らテーマを見つけ、解決していく探究力が身についたと感じる生徒が80%以上である。	B	B	B	本校独自のゼミ単位の活動の充実を図り、特に1年生では文理を融合し、同じテーマに対して多角的なアプローチを試みる取組を行った。	生徒と教員の評価のギャップは決して小さなものではない。「総合的な学習の時間」の意義を生徒に明確に伝える必要と、取り扱う内容の改善が必要である。	次年度から始まる「総合的な探究の時間」とともに探究力を養うことの大切さを実感できるようなプログラムの編成に取り組む。
		③ Oxbridge研修やその報告会などのグローバル教育を通じて、グローバル社会での生き方や異文化に対する理解が進んだ生徒が80%以上である。	B	B	B	Oxbridge研修に関するこれまでの取組に加え、明石塾を初めその他校外の国際交流活動を生徒に紹介し、積極的な参加を呼びかけた。	実際に参加していない生徒・保護者に対して「生き方や異文化に対する理解」の進化まで求めるのは難しいのではないかと。	参加者による報告の方法に工夫を加える。また、校外の国際交流プログラム等への参加の一層の推進により、実体験できる生徒の数を増す。
II 生徒の意欲的な学習活動について、適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 65分を有効に活用し、授業に80%以上の生徒が満足している。	A	A	A	通常の授業より15分長い授業の中で、生徒にどのような活動をさせるべきかの検討を行いながら授業改善に取り組んだ。	授業に臨む生徒の意欲の高さがうかがえる。生徒が自主的に活動する場面を多く作られているので良いと思う。	次年度、55分授業へ変更が決定しているが、65分授業のメリットのうち、継承できるものについての研究を行う。
		② 英語や数学などの教科で行っている少人数授業や習熟度別授業に90%以上の生徒が満足している。	B	B	B	一応の成果を上げているが、まだ、1人ひとりの生徒に対して、適切な指導をきめ細かく行えるという利点を活かし切れていない。	ただ「少人数で行う授業」ではなく、少人数で行うメリットを十分に活かした授業でなければ意味が無い。	少人数授業のメリットを再確認し、それを最大限に活かせる授業の在り方を各教科で研修する。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	① 生徒自ら考え、発表するなど、主体的な活動を行う生徒が80%以上である。	B	B	B	ICTの活用・AL型授業の積極的な導入により、生徒が自主的に探究に向かうような授業への改善に取り組んだ。	生徒の意識・意欲が二極化しており、主体的学習意欲の低い生徒への対策が必要である。	各教科で、主体的学習意欲が低い生徒に対して、どのようなアプローチが可能なのかを研究し、実行に移していく。
		② 生徒が主体的に授業に取り組めるような授業改善のための研修会を各学年で年に2回以上実施している。	A	A	A	今年度は各学年ごとの授業改善に加えて、従来の各教科ごとの研修も計画・実施した。	より良い授業のために学校全体として継続して取り組んで欲しい。	教科単位の研修と教科の枠を越えた研修の両方を織り交ぜ、多面的な授業改善に取り組む。
		③ 英語等によるコミュニケーション能力が身につけてきていると感じる生徒が90%以上である。	B	B	B	昨年度に引き続き、県の指定事業を利用し、AL型授業、英検受験、ディベート活動等を推進し、学校全体でコミュニケーション能力の向上を意識した取組を行った。	生徒の満足度は「できるようになった」という自己効力感とリンクするので、多様なアプローチで能力を向上できる手助けが必要なのではないか。	ループブックの利用など、生徒自身が自分の成長を確認できるような評価システム等の対策を講じたい。
4 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	① 平均家庭学習時間を1・2年で3.0時間、3年で4.5時間以上確保して、予習と復習に努めている。	C	C	C	スキマ時間の活用や課題の工夫などで家庭学習を促してきたが、十分な効果を上げられなかった。	学習を質ではなく量で評価することに、それほど拘らなくてもよいのではないかと。	生徒一人ひとりが自己のスケジュール管理をすることの重要性を理解させ、そのための能力の養成に取り組む。	
	② 学校内での朝学習や放課後の自習室利用など、校内での主体的な学習に取り組む生徒が70%以上である。	B	B	B	今年度から自習室を7時から20時まで利用可能としたことに対する生徒からの評価は高いが、実際に利用する生徒の割合が思ったほど増えなかった。	自習室の開放時間の延長等、使い勝手の向上策を考えてもよいのではないかと。	安全管理に配慮しながら、自習室を初めとする校内施設の使い勝手の向上を検討する。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	① 学年会議・生徒指導部会議・教育相談係会議において、月に2回以上の生徒に関する情報交換を行っている。	B	B	B	毎回の校務運営委員会の最後に、生徒情報の交換の場を設けることによって、学校全体としての情報の共有を果たせるようにした。	校内での情報の共有は適切な指導の前提にあるのでしっかりとお願いしたい。	校務運営委員会は月間1回なので、その間の情報共有が迅速に行われるような体制を整え、維持していく。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 遅刻をする生徒が、全校平均で1日あたり10名以下である。	B	B	B	遅刻が多い生徒への指導は、担任を中心とした学年団が行い、必要に応じて教育相談的な支援も行っている。	欠席が多い生徒の対策は早急に、遅刻をする生徒も含め、家庭との連携を密にする必要がある。	欠席・遅刻をする生徒は常習的な傾向が強いので、教育相談的な支援を引き続き強化していきたい。
		② 学校全体で、挨拶運動や規律遵守に取り組んでいる。	B	B	B	自主的・自律的精神に基づいた学校作りに取り組んでいるが、今年度はいくつかの規律違反が発生してしまった。	この項目については、生徒・保護者の評価に対して教員の評価が低いのは、指導の観点からすると良いことである。	自主的・自律的精神を大切に、挨拶や規律遵守の大切さを引き続き訴え、指導を継続していきたい。
	7 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。	① 部活動に実人数で95%以上の生徒が加入している。また、県総体総合3位以上及び関東大会以上に出場の部活動5つ以上を目指す。	B	B	B	学校全体として意欲が高く、2年連続の県総体総合優勝は立派な成果である。	未加入または退部した生徒に対するケアをしっかりとすることで、入部または再入部する生徒が多いと思われる。	部活動に入部しない生徒の割合が僅かではあるが増えているので、その原因と対応策を考え、取り組んでいく。
		② 部活動が生徒の主体性を生かし、メリハリのある活動の中で充実していると感じている生徒が90%以上である。	B	B	B	全部活動の月間活動計画で活動時間の管理に努め、ある程度の成果を上げることができた。	生徒の自主性を尊重しながらも、多方面からの支援・協力をお願いしたい。	各部の活動計画の管理から、各部員生徒のスケジュール管理に結び付けられるような支援をする。
		③ 部活動に取り組む生徒のうち、文武両道を実践していると感じている生徒が70%以上である。	B	B	B	部活動のスケジュール管理と生徒の意識高揚の両面からアプローチを試みているが、十分な成果をあげられていない。	70%近くの生徒が文武両道に肯定的であることは素晴らしい。残りの約30%も高い理想があるから否定的なものではないかと。	各部の活動計画の管理と生徒個人のスケジュール管理の両面から、文武両道の実現を支援していく。
		④ 定期戦及び文化祭をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。	B	A	A	生徒の自主的・自律的な運営を促し、特活部を中心にその支援に当たっている。	クラスのカラーや生徒個人の性格に違いはあるが、楽しんで学校行事に取り組んでもらいたい。	学校行事の精選も含め、生徒が落ち着いた学校生活の中で、積極的に参加できるような体制を整えていく。
	8 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	① 本校の「スマホ利用ルール」を理解し、それに従った生活ができている生徒が80%以上である。	B	B	B	ほとんどの生徒は「スマホ利用ルール」を理解し、それに従った行動をとれているが、一部でルール違反が発生し、臨時的集会を開くなどの対応も行った。	学業とは別に、自己統制能力の向上が大切な課題になっている。	SNS利用から派生する危険・デメリットについての周知徹底を基礎に、スマホ利用マナーの向上を訴える。
		② 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると考えている生徒が80%以上である。	A	A	A	「いじめアンケート」が、いじめの早期発見・早期対応のみならず、いじめ防止にも効果的に機能している。	学生であると同時に社会の一員であることの自覚を育てる指導が大切である。	いじめはあって当然という認識のもと、組織的に早期発見と迅速な対応に努める。
9 読書指導が行われていますか。	① 学校図書館の貸出冊数が7,000冊を超えている。	B	B	B	図書館で「総合的な学習の時間」の活動のテーマを特集するコーナーを設置するなど、様々な取組を行っているが、生徒の読書時間の増加につながっていない。	読書の大切さを理解させることと、読書に当てられる時間の確保も必要なのではないかと。	インターネットの世界からではなく、読書から得る知識・語彙力や表現方法などの重要性を訴えかけていく。	

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目	具 体 的 数 値 項 目	①	②	総 合			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	① 進路に関するLHRを各学年で年に10回以上実施し、80%以上の生徒が進路選択の参考になると認識している。	A	A	A	生徒の高い進路意識に答えられるように、これまで蓄えてきたノウハウを駆使し、効果的な進路指導につながるLHRを実施している。	充実した進路指導の様子がうかがえる。更なる向上めざし、改善の努力を継続して欲しい。	「総合的な探究の時間」の実施にともなうLHR計画の見直しの中で、進路指導についても検討を要する。
		② 「前高ジャーナル」、「進路概況」や「進学の手引」を、80%以上の生徒が役に立つと認識している。	A	A	A	かなり質の高い資料が作成されており、生徒の評価も高いが、それを目にすることがない保護者が少なからず存在することが課題である。	資料を見ていない保護者の割合は年々減少している。学校側の地道な努力の成果だと思う。	作成する資料の質の向上と、保護者への周知徹底への取り組みに並行して取り組んでいく。
		③ 研修旅行、社会人講演会、インターンシップ等のキャリア教育行事に満足している生徒が80%以上である。	A	A	A	昨年度以降、インターンシップの引受け企業の開拓と、生徒への参加の呼びかけの強化を図った結果として、インターンシップへの参加生徒数も増加している。	社会人として出発するときのために、キャリア教育にも力を注いで欲しい。	職業意識涵養の面で、各種のキャリア行事が効果的に機能するように、計画・内容の確認と見直しを継続する。
	11 生徒は自らの進路希望について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	① 土曜登校学習や平常時及び長期休業中の補習授業が、進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が80%以上である。	C	C	C	限られた回数の補習授業を効果的なものにするべく計画を立て実施してきたが、その評価は非常に厳しいものになっている。	授業内容の明確化、講座の選択制等の工夫をすることで、生徒が積極的に参加できるのではないかと。	特に土曜登校については、「総合的な探究の時間」と連携させるなど、効果的な使い方について検討する。
		② 夏季休業中の学習合宿に参加した生徒のうち、学習合宿が進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が90%以上である。	A	A	A	受験勉強の基礎を築くための行事として、参加した生徒の評価は非常に高いが、参加生徒数が減少していることが課題である。	先生方の尽力によるものと感謝している。	引率職員の利便性や保護者の経済的負担の軽減などの観点から、合宿地の見直し等の検討を行う。
		③ 生徒のより高い進路目標の実現を目指し、生徒の大学合格率が80%以上、大学進学率が70%以上である。	未	B	B	生徒・保護者が納得できる進路実現のため、生徒の実力養成に努めているが、納得できる進路の実現と現役での大学進学率の向上を両立することは困難である。	生徒の希望を尊重しつつ、的確な助言もお願いしたい。	進路希望の実現可能なレベルまでの実力を養成するための取り組みが最重要課題である。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的な情報発信をしていますか。	① 「前高web page」の内容を月2回更新し、学習・進路・部活動等各種情報を発信している。	A	A	A	今年度、web page更新のための手続きを一部見直し、よりスムーズな更新が行えるようなシステムに変更した。	平成29年度からみると9割を超える記事の更新が見られる。その努力に感心する。	web page更新の頻度に加え、今後は発信する情報内容の精選にも努める。
		② 学校通信「前高通信」などによる学校からの情報提供に満足している生徒・保護者が80%以上である。	A	A	A	大きな学校行事が行われた後に発行するという程度の発行であったが、取り扱った内容・情報提供に対する生徒・保護者の満足は高かった。	ぜひ継続して、定期的な発行に取り組んで欲しい。	インターネットを利用しにくい環境にある保護者への情報提供という意味でも、定期的な発行に努めたい。
	13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	① 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年に2回以上実施している。	A	A	A	各種講演会における講師として、同窓生の力を借りることは多い。今後は、もっと範囲を広げ、保護者・地域社会等の人的資源の活用も検討しなければならない。	地域社会の人的資源の活用は、教職員の多忙化解消とも関連するのではないかと。	同窓生を中心とした人的資源のリストアップとその整理を継続して行っていく。
	14 生徒の安全意識向上の取り組みを行っていますか。	① 規範意識と危険回避能力を高める指導を行い、自転車事故15件以下を目指して指導する。	B	B	B	本校生徒及び他校生徒の事故発生や近隣住民からの苦情が合った時など、時宜を逃さず交通安全指導を行ってきた。	学校規模からすると、事故発生件数は決して多いとは思えないが、引き続きご指導をお願いしたい。	少なくとも、生徒自身の注意で防ぐことができる交通事故の発生件数が0になるように訴え続けていく。
		② 自転車事故減少に向けた交通安全教室や諸注意を受け、交通マナー・規則遵守の精神で自転車運転を行っていると感じている生徒が90%以上である。	B	B	B	今年度はスタントマンによる危険な自転車走行に伴う交通事故を再現する交通安全教室を全校生徒を対象に実施し、危険性を疑似体験させることで、交通マナー・規則遵守の意識を高めることを試みた。	学業とは別に、「人としてのルール」の大切さを強く指導していただきたい。	自転車運転者が加害者となる重大な交通事故が発生していることを認知させ、交通マナー・規則遵守の重要性を自覚させるような取り組みを行う。
15 環境面で生徒の安全が確保されていますか。	① 災害発生時に適切な行動をとることができると自覚している生徒が80%以上である。	A	A	A	2回の避難訓練はそれぞれ災害発生条件を変えて実施した。また、毎月の安全点検で、危険箇所・問題箇所等を確認し、修理・改善に努めてきた。	災害発生時に、自分だけではなく、地域住民、特に社会的弱者の命も救えるような人間に成長してくれることを願う。	本校は前橋市が作成したハザードマップで浸水想定区域に入っているため、それに対する対応も必要である。	
VI 学校における生徒の健康・安全に努めていますか。	16 保健面で生徒の健康が確保されていますか。	① 健康面で安心感があると、80%以上の生徒が回答している。	A	A	A	生徒の保健委員会の活動等も活発に行われた。現状では、ほとんどの生徒が自分の健康に不安を感じていないが、スマホの利用時間の長さ、睡眠時間の短さ等、危険因子は多く存在する。	学校は、生徒同士が日々切磋琢磨しながらも、時には心のベース基地として安心できる空間であってくださることを願います。	情報の収集に努め、僅かな生徒の変化も見落とすことが無いようにする。また、基本的な生活習慣の確立のための支援を継続していく。